

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O193600046		
法人名	株式会社 彩寿		
事業所名	グループホーム彩寿 1階		
所在地	苫小牧市桜木町2丁目2番20号		
自己評価作成日	令和7年2月1日	評価結果市町村受理日	令和7年5月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=O193600046-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和7年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく家庭的な雰囲気を大切にし、入居者様やご家族様が安心して過ごせる様、スタッフが楽しく仕事が出来様にを目標に掲げ、笑顔の絶えない家作りを目指しています。共に喜んだり、悲しんだり入居者様とスタッフが家族のような関係作りを大切にしています。また、医療機関と訪問看護ステーションとの連携により日々の健康管理や看取り介護にも積極的に取り組んでいます。地域行事への参加などを通して、地域との繋がりがりも大切にし、入居者様やご家族様に安心・信頼して頂ける家作りを目指していきたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

桜木が多くあるエリアの閑静な住宅地に位置する2ユニットの事業所である。建物は2階建てで両ユニットに地域交流室を備え、玄関やリビングも明るくゆったりとした造りである。地域との関係性も良好で、町内会からは利用者支援の取り組みにつながる様々な情報が届き、住民による除雪や畑づくりの協力も得ている。看護実習生の受け入れや、笑顔の花咲く写真展への出展、地域の鍵預かり事業への協力も継続している。重要事項説明書に「利用者が生活の主体者」である事を明示し、施設長を中心に2名の管理者が其々のユニットで職員とチームとなり、援助する側の主観や都合によるものとし、利用者主体の統一した支援を行っている。毎月、利用者カンファレンスを実施し、本人の願いや意向と共に望ましい生活像を示し、課題解決や安定、自立にむけた支援を検討している。利用開始時に、夜間睡眠もなかなか取れず日中も落ち着かずといった方では、求めている事をキャッチして関わり続けた結果、環境に慣れ親しみ生活が安定した事例もある。居室で帰り支度を始め、引越しのよう毎日荷物を広げる状況にあっても、職員はその都度、安心できる対応を重ねている。家族へは毎月個別の手紙を送付して様子を知らせ、看取り支援にも尽力しており、家族の評価も高い。利用者1人ひとりの心理的ニーズを把握し、その人らしい自由な暮らしを支えている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念をホール内に掲げ、スタッフ間で共有し実践に繋がるよう取り組んでいる。ケアプラン作成時やケアに取り組む際には理念に沿っているか確認し、実践につなげている。	地域密着型サービスの意義や役割を盛り込んだ3項目の基本理念を標榜している。パンフレットへ明示し事業所内要所へ掲示している。「その人らしい自由な暮らし」の実現に向けた支援のあり方をミーティングで話し合い、理念に則った介護と生活支援に尽力している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事等の参加や、定期的に町内会との情報交換をしている。	町内会とは良好な関係を維持しており、町内会主催の行事案内や種々の情報を得ている。今年度は災害時に使える防災ナップザックの寄贈を受け、近隣の方々による雪かきや畑づくりの協力もある。事業所は鍵預かり事業に協力し高齢独居者の支援を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣地域の小学校での、認知症サポーター養成講座に出向き、認知症についての理解や支援方法を広めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員や町内会の方に参加してもらい情報交換や、ホームの近況について意見交換を行っている。ご家族様については参加頂ける様取り組んでいる。	市の介護福祉課担当者、町内会役員の出席を得て開催している。通例の報告事項や町内会、市からの情報提供の他、感染症対策、看取り支援、看護学生の実習受け入れ、家族参加の行事等について意見交換している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホーム内で何か、問題や疑問が発生した場合など、市町村に連絡を取ることや、運営推進会議に参加してもらい協力関係を築けるよう取り組んでいる。	市の集団指導にて制度の変更点や注意事項などの情報を得て、不明点は市の担当部署と連絡を取り合い適正な運営の維持に向けている。苫小牧市GH連絡会に参加し、勉強会や情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な禁止行為を正しく理解できるよう研修会やミーティングを通し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束等適正化のための指針を定め、3か月に1度身体拘束適正化委員会を開催している。委員会では事例に基づき検討し、基本的な介護の徹底(5つの基本ケアの徹底)を重ね適正化に努めている。これらに係る内部研修を年2回実施している。リスクに関する家族への伝達はその都度行っている。夜間のみ玄関を施錠している。	

グループホーム彩寿

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会を行い、スタッフ間の情報を共有し、虐待が見過ごされることがない様、防止しに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を設け、必要性を関係者と話し合い活用できるようにしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、十分な説明を行い、入居者様やご家族様の疑問や不安に思う点を解決し理解、納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様とのコミュニケーションを大切にし、意見や要望を発信しやすい関係作りに努めている。また、それらを運営に反映させる様努めている。	利用者からの外泊したいとの要望には家族に協力を仰ぎ、外食したいには職員が個別で対応し希望に込えている。家族からは行事への参加について、栄養補助食品の情報提供や希望が寄せられ、その都度、対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフとの意見交換は随時行っている。年1回個別懇談の場も設け、出された意見や提案は、十分話し合い、反映させている	年1回施設長による個別懇談や必要時等に面談する機会を設け、其々のユニット管理者もその都度、職員意見を聞き取り、一緒に話し合い調整している。毎月の各ユニットごとのミーティングでも職員は積極的に意見を出しており、支援等に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況を把握し待遇改善、職場環境整備に努めている。向上心がもてる様、資格習得の為に休暇や受験費用負担、手当等の制度を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加や内部研修などの機会を設け、職員を育てる取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業他社との交流の機会には積極的に参加できるように調整を行い、勉強会等の場を通して、サービスの質の向上に繋がるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談を行い、困っていることや不安に思っていることに耳を傾け、本人が安心できる、関係作りに努めている。また、エピソード用紙を活用している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様とも面談を行い、困っていること、不安に思っていること、要望に耳を傾け関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様、ご家族様が必要としているサービスを見極め、十分な話し合いをし、対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側もされる側も、同じ立場という思いで、暮らしを共にする家族という関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の状況を把握し、ご家族様と情報を共有し、共に本人を支えていく関係を築いている。押しつけの介護にならない様にも気を付けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所との関係や友人関係が途切れない様に、外出支援や電話、面会等の支援に努めている。	面会は居室で対応し、知人が訪れている利用者もいる。電話や手紙の取り次ぎや携帯電話を所持している方は自由に通話している。また、居室に通話型見守りカメラを設置し、朝や晩、家族と会話する方もいる。家族との外食や買物、法事の参列、一時帰宅や外泊、旅行に出かけている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様それぞれの性格、生活習慣を把握し、入居者様同士の関わり合いが出来るよう支援している。		

グループホーム彩寿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了していても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の希望や意向を把握できるよう関係作りに努めている。困難な場合は、本人本位で検討するよう努め、その人が考えているであろう希望をくみ取れる様心がけている。	会話での希望や意向の把握はもとより、利用者の側に座り業務をする中でもノンバーバルコミュニケーションを意識し、本人の状況や本音を察し、本人本位を汲み取っている。利用者に安心感を与える環境に配慮し、応答を確認するなどして意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に頂く情報と、本人やご家族様から頂いた情報を基に、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録等やコミュニケーションを通して、個々の生活リズムや身体状況の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族様の意向を聞き、モニタリングを行い、意見等を反映しながら、現状に添った介護計画を作成できる様努めている。	毎月利用者全員のカンファレンスを実施し、課題や気づきを詳細にアセスメントしている。本人の意向、家族等の意見等を反映させ、望ましい生活を支援する生活援助計画を策定している。現状に即した計画と支援により食事の摂り方の改善につながった事例もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、スタッフ間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族様の、その時々ニーズに合わせ、柔軟な対応が出来るよう、十分な話し合いをしながら取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、地域行事等に参加したり、本人が心身の力を発揮し、楽しく暮らせるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診または、必要に応じて外来受診の支援を行い、かかりつけ医との関係を築きながら、緊急時の連絡体制を整え、適切な医療を受けられる様支援している。	内科、歯科、皮膚科の訪問診療と訪問看護の体制を整えている。月に1度歯科医院より口腔衛生管理体制による助言や指導を得ている。その他診療科目は職員が通院支援を行っている。定期訪問記録、通院記録を整え、適宜、家族と医療内容を共有している。	

グループホーム彩寿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約により、24時間連絡可能な体制となっており、週1回の定期訪問で情報交換、情報の共有をし、適切な看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者の入院時には、安心して治療が受けられるよう、また、早期退院が出来るよう情報交換、情報の共有、相談等病院関係者との関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、看取り介護についての説明を行っている。実際に看取り介護の状態になった時は、かかりつけ医や訪問看護ステーション、ご家族様と連携をしながら、スタッフ全員で看取り介護に取り組んでいる。	「入居者の急病や怪我、重度化し看取りの必要が生じた場合などの対応における指針」を契約時に説明し同意を得ている。主治医、家族との3者で話し合い、看取り介護の状況となった際は、「看取り介護についての同意書」を交わしている。開設時から多数の看取り支援に尽力している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に備え、随時話し合い・確認を行っている。全員が救急マニュアルを把握し、実践力を身に付けれるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、昼・夜の避難方法等の確認を行っている。また、災害を想定して備蓄品の保管をしている。災害時の避難訓練を行いながら、地域との協力体制も築いて行きたい。	R6年11月日中想定、12月夜間想定の方針避難訓練を実施し、其々、地域住民の参加を得ている。災害備蓄品の点検を行い、垂直避難に係る1階から2階への移動方法について口頭で共有している。自然災害発生時における業務継続計画(BCP)を策定している。	①策定した自然災害発生時における業務継続計画(BCP)の内容にそった訓練実施に期待したい。②当該訓練後、その実効性の検証と訓練実施記録の整理に期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせて、声の大きさや言葉使いに注意し、誇りやプライバシーを損ねない様に声かけをする。その時の状況に合わせた対応をしている。	全体会議やユニット会議で利用者とのコミュニケーションの取り方や接遇、虐待について取り上げ、注意喚起している。立ち上がった際も直ぐの声がけをせず、本人の向かう先を見守るなどプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを通して、本人が思いや希望を表せるよう、また自己決定が出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを尊重し、本人の希望に沿った日々を過ごせるよう支援している。		

グループホーム彩寿

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容を利用している。衣服や化粧品は、本人の意思を尊重し、その人らしいオシャレが出来る様声かけを行い支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みに合わせて、外食や出前などで、食事が楽しみになる様支援している。また、本人の負担にならない様に、スタッフと一緒に食事の準備や片付けをしている。	誕生日に本人の好物の提供や、出前や個別外食、家族参加のBBQや行事の際のオードブル等で変化をつけている。食事開始時間や膳の整え方も利用者の個々の状態に合わせ、喫食のし易さに配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、1日を通して栄養や水分が確保出来るよう努めている。必要に応じて、介護食の提供やトロミをつけるなどの支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがいの声かけや、義歯の洗浄等で、口腔内が清潔に保てるよう支援している。訪問歯科の先生と連携し、本人に応じた口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし支援を行っている。個々の力や排泄パターンに合わせて、トイレ誘導等の支援をしている。	トイレ誘導の際はプライバシーに配慮した接遇を心がけている。毎月アセスメントとモニタリングを繰り返し、利用者個々における望ましい排泄支援を検討している。重度化、終末期の場合も排泄状況の確認や衛生面、皮膚トラブル等にも留意し適切な排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分量に気を付け、個々の排泄パターンを把握し、トイレに行く習慣が出来るよう支援している。必要に応じて、腹部マッサージや服薬の支援、乳製品や食物繊維の摂取など予防にも取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間は決めておらず、本人の希望や体調に合わせて入浴できるよう支援を行っている。	曜日を特定せず、午前から午後の可能な時間枠の中で利用者1人週2回、本人の意向等に合わせた入浴を支援している。入浴の誘いから浴後のドライヤーまで同じ職員が対応し、状態に応じ居室からシャワーキャリーを使用するなど負担感へも配慮し、安心、安全な入浴となるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活パターン、身体状況に合わせて、食後の休憩ができるよう支援している。また、夜安心して気持ちよく眠れるよう、それぞれに合わせた就寝時間にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの薬の目的や副作用、用法用量を理解し、服薬支援を行っている。症状の変化の確認にも努めている。		

グループホーム彩寿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活歴を活かし、ぬり絵をする編み物するなど、楽しみがもてるよう支援している。また、希望に合わせて嗜好品の購入などで、気分転換等の支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人やご家族様の希望にそって外出できるよう支援している。	天候のよい時期は近隣の散歩やウッドデッキから畑を眺めるなど外気浴をしている。ドライブで川沿いの桜見学や個別外出ではスーパーマーケットへの買い物や外食に出かけている。家族と一緒に外出を楽しむ利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や力に応じて、自分でおやつ代を管理している人もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に添って、手紙や電話の取り次ぎなどの支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、花や行事の写真等を張り、季節を感じられるような空間作りをしている。また、扇風機や加湿器などで、温度・湿度に気を付け、居心地よく過ごせるよう工夫している	玄関やユニットドアはガラス戸仕様で全体的に開放感がある。調理の様子が間近で見渡せるアイランドキッチンと一体になったリビングダイニングは、広く明るい造りでテーブルやソファの配置を工夫し利用者の居心地に配慮している。空間装飾は落ち着いた雰囲気がある。適宜の換気や温湿度に留意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に新聞やテレビ、雑誌等を見るなど、思い思いに過ごせたり、気の合う人同士が過ごせる様な居場所作りを工夫している。また車椅子でも、自由に動けるよう家具の配置にも気を付けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使用していた馴染みの物を配置したり、ご家族の写真飾るなどしている。転倒のリスクを考え、家具の配置を決めたり、動きやすい環境を作るなど、居心地の良い居室作りをしている。	居室にはパネルヒーター、クローゼット、照明、ナースコールを設備している。馴染みの物の一例では、筆筒やテーブル、掃除機、大型クッション、通話型見守り機器など、また、趣味の物やプレゼント品等を飾っている。本人の状態像に応じ、安心安全な環境をサポートしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に快適に過ごせるよう、死角になる廊下には鏡を設置し、必要に応じて手すりを付けている。転倒のリスクがある場合は、物を置かないなどの工夫をし、入居者様が自立して生活を送れるように支援している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O193600046		
法人名	株式会社 彩寿		
事業所名	グループホーム彩寿 2階		
所在地	苫小牧市桜木町2丁目2番20号		
自己評価作成日	令和7年2月1日	評価結果市町村受理日	令和7年5月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0193600046-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和7年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく家庭的な雰囲気を大切にし、入居者様やご家族様が安心して過ごせる様、スタッフが楽しく仕事が出来る様をを目標に掲げ、笑顔の絶えない家作りを目指しています。共に喜んだり、悲しんだり入居者様とスタッフが家族のような関係作りを大切にしています。また、医療機関と訪問看護ステーションとの連携により日々の健康管理や看取り介護にも積極的に取り組んでいます。地域行事への参加などを通して、地域との繋がりがりも大切にし、入居者様やご家族様に安心・信頼して頂ける家作りを目指していきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念をホール内に掲げ、スタッフ間で共有し実践に繋がるよう取り組んでいる。ケアプラン作成時やケアに取り組む際には理念に沿っているか確認し、実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事等の参加や、定期的に町内会との情報交換をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣地域の小学校での、認知症サポーター養成講座に出向き、認知症についての理解や支援方法を広めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員や町内会の方に参加してもらい情報交換や、ホームの近況について意見交換を行っている。ご家族様については参加頂ける様取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホーム内で何か、問題や疑問が発生した場合など、市町村に連絡を取ることや、運営推進会議に参加してもらい協力関係を築けるよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な禁止行為を正しく理解できるよう研修会やミーティングを通し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会を行い、スタッフ間の情報を共有し、虐待が見過ごされることがない様、防止しに努めている。		

グループホーム彩寿

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を設け、必要性を関係者と話し合い活用できるようにしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、十分な説明を行い、入居者様やご家族様の疑問や不安に思う点を解決し理解、納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様とのコミュニケーションを大切にし、意見や要望を発信しやすい関係作りに努めている。また、それらを運営に反映させる様努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフとの意見交換は随時行っている。年1回個別懇談の場も設け、出された意見や提案は、十分話し合い、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況を把握し待遇改善、職場環境整備に努めている。向上心がもてる様、資格習得の為の休暇や受験費用負担、手当等の制度を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加や内部研修などの機会を設け、職員を育てる取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業他社との交流の機会には積極的に参加できるように調整を行い、勉強会等の場を通して、サービスの質の向上に繋がるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談を行い、困っていることや不安に思っていることに耳を傾け、本人が安心できる、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様とも面談を行い、困っていること、不安に思っていること、要望に耳を傾け関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様、ご家族様が必要としているサービスを見極め、十分な話し合いをし、対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側もされる側も、同じ立場という思いで、暮らしを共にする家族という関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の状況を把握し、ご家族様と情報を共有し、共に本人を支えていく関係を築いている。押しつけの介護にならない様にも気を付けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所との関係や友人関係が途切れない様に、ご家族様の協力も得て外出支援や電話、面会等の支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様それぞれの性格、生活習慣を把握し、入居者様同士の関わり合いが出来るよう支援している。		

グループホーム彩寿

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了していても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の希望や意向を把握できるよう関係作りに努めている。困難な場合は、本人本位で検討するよう努め、その人が考えているであろう希望をくみ取れる様心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に頂く情報と、本人やご家族様から頂いた情報を基に、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。エントリーシートの活用		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録等やコミュニケーションを通して、個々の生活リズムや身体状況の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族様の意向を聞き、モニタリングを行い、意見等を反映しながら、現状に添った介護計画を作成できる様努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、スタッフ間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族様の、その時々々のニーズに合わせ、柔軟な対応が出来るよう、十分な話し合いをしながら取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、地域行事等に参加したり、本人が心身の力を発揮し、楽しく暮らせるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診または、必要に応じて外来受診の支援を行い、かかりつけ医との関係を築きながら、緊急時の連絡体制を整え、適切な医療を受けられる様支援している。		

グループホーム彩寿

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約により、24時間連絡可能な体制となっており、週1回の定期訪問で情報交換、情報の共有をし、適切な看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居様の入院時には、安心して治療が受けられるよう、また、早期退院が出来るよう情報交換、情報の共有、相談等病院関係者との関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、看取り介護についての説明を行っている。実際に看取り介護の状態になった時は、かかりつけ医や訪問看護ステーション、ご家族様と連携をしながら、スタッフ全員で看取り介護に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に備え、随時話し合い・確認を行っている。全員が救急マニュアルを把握し、実践力を身に付けれるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、昼・夜の避難方法等の確認を行っている。また、災害を想定して備蓄品の保管をしている。災害時の避難訓練を行いながら、地域との協力体制も築いて行きたい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせて、声の大きさや言葉使いに注意し、誇りやプライバシーを損ねない様に声かけをする。その時の状況に合わせた対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを通して、本人が思いや希望を表せるよう、また自己決定が出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを尊重し、本人の希望に沿った日々を過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容を利用している。衣服や化粧品は、本人の意思を尊重し、その人らしいオシャレが出来る様声かけを行い支援している。		

グループホーム彩寿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みに合わせて、外食や出前などで、食事が楽しみになる様支援している。また、本人の負担にならない様に、スタッフと一緒に食事の準備や片付けをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、1日を通して栄養や水分が確保出来るよう努めている。必要に応じて、介護食の提供やトロミをつけるなどの支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがいの声かけや、義歯の洗浄等で、口腔内が清潔に保てるよう支援している。訪問歯科の先生と連携し、本人に応じた口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし支援を行っている。個々の力や排泄パターンに合わせて、トイレ誘導等の支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分量に気を付け、個々の排泄パターンを把握し、トイレに行く習慣が出来るよう支援している。必要に応じて、腹部マッサージや服薬の支援、乳製品や食物繊維の摂取など予防にも取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間は決めておらず、本人の希望や体調に合わせて入浴できるよう支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活パターン、身体状況に合わせて、食後の休憩ができるよう支援している。また、夜安心して気持ちよく眠れるよう、それぞれに合わせた就寝時間にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの薬の目的や副作用、用法用量を理解し、服薬支援を行っている。症状の変化の確認にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活歴を活かし、ぬり絵をする編み物するなど、楽しみがもてるよう支援している。また、希望に合わせて嗜好品の購入などで、気分転換等の支援をしている。		

グループホーム彩寿

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人やご家族様の希望にそって外出できるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や力に応じて、自分でおやつ代を管理している人もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に添って、手紙や電話の取り次ぎなどの支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、花や行事の写真等を張り、季節を感じられるような空間作りをしている。また、扇風機や加湿器などで、温度・湿度に気を付け、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に新聞やテレビ、雑誌等を見るなど、思い思いに過ごせたり、気の合う人同士が過ごせる様な居場所作りを工夫している。また車椅子でも、自由に動けるよう家具の配置にも気を付けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使用していた馴染みの物を配置したり、ご家族の写真を飾るなどしている。転倒のリスクを考え、家具の配置を決めたり、動きやすい環境を作るなど、居心地の良い居室作りをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に快適に過ごせるよう、死角になる廊下には鏡を設置し、必要に応じて手すりを付けている。転倒のリスクがある場合は、物を置かないなどの工夫をし、入居者が自立して生活を送れるように支援している。		